

# 平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立吹上小学校
校長氏名	内田 敏夫
作成日	平成 28年 2月15日

## 1 教育目標

### 新しい時代を切り拓く、心豊かでたくましい人間を育成する

(ふ) 深く考え、進んで学ぶ子

(き) 気概をもち、めあてに向かって働く子

(あ) あったかい心をもち、なかまとみがきあう子

(げ) 元気いっぱい、体をきたえる子

## 2 本年度の取組についての評価



	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	(1) 積極的に学校を開放し、育友会や吹上地区各種団体との連携を密にする。 (2) 学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる機運を高める。 (3) 安全・安心な学校づくりをめざし、セキュリティー面や個人情報の保護等にも十分配慮していく。	(1) すべての教育活動を通して、一人一人を大切にする。 (2) 教師と子どもの人権感覚を磨き、きめ細かな指導を通して、人間性の高揚を図る。 (3) 地域や地域の人たちや自然に関心を持ち、つながりを深め教師と子ども、子ども同士の相対性と関係性の高揚に努める。	(1) この子の特性を把握し、その特性に応じた指導を行う (2) この子の「よさ」を生かした生き方の基礎を培う教育活動を展開する。 (3) 「算数科教育」の実践研究を通して、自分の考えを「かく」、「説明する」、「考えをつなぐ」ことを通してより主体的に学ぶ力・論理的な思考力を育む。
取組の状況【D】	○授業参観や教育講演会、学校便り「たまも」や学級通信などを通して子どもの活動状況を広く伝え、保護者意識の改革を図った。 ○土曜チャレンジへの積極的な参加の奨励やPTA主導で放課後運動場を開放したことから子どもたちの体験や遊びの幅が増した。 ○学校開放を活用したり教育関係者の学校訪問を促したりして、その取り組みの内容を保護者や地域の方々に広く伝えた。	○「チーム吹上」を合言葉に、子ども一人ひとりの心に響く指導に心がけるよう教員の意思改革を促した。 ○ゲストティーチャーを招いたり、様々な体験的活動を多用し、子どもの感性を高める取り組みをした。 ○教科学習はもとより、朝の会や終わりの会、清掃活動や児童会活動等教育活動全般を通して、教師と子ども、子ども同士のお互いの人間関係の連携を強化し、保護者との連携を密にした。	○算数科の授業研究のみならず、道徳や各教科の学習過程の最適化を図り、指導と評価の一体化に努めた。 ○学力の向上と相まって、体力・運動能力の向上のため早朝練習(陸上・バスケット)に努めた。体育授業では学習指導法を使い分けるなど工夫・改善を図った。 ○算数科における研究発表を行い、授業改善を図り、教員相互の資質の向上を図った。
(評価結果【C】)	◇学校便り「たまも」や授業参観、教育講演会等を通して行った保護者と一体となった子育ては、まずまずの成果を得られた。 ◇より良い学校を創るための保護者あてアンケートの結果は、調査項目のほとんどにおいて好意的反応が80%を超えていた。	◇「チーム吹上」の教育理念が浸透し、教職員が一丸となって勢いを感じることができた。また、PTAでも同様の取り組みがなされ相乗効果を見ることができた。 ◇保護者アンケートから好意的反応が低い項目は、次年度の課題として取り組みたい。	◇全国学テの正答率は、全国を大きく上回っていた。一方、新体力テストの結果から筋持久力が低いことが判明した。これを高める方策を展開することが課題として残った。 ◇個に応じた基礎学力向上のための指導、国語科・算数科の徹底復習、読書活動の奨励やうちどくなどを推進しているが、まだまだ個人差が激しい。
次年度に向けての改善方法【A】	◎アンケートの結果から鑑み、子ども個々人をさらに見つめ、認め、生かすようにしたい。 ◎保護者や地域への関わり方の工夫・改善を図りたい。 ◎評議委員・関係者評価委員のさらなる協力を仰ぎつつ、教職員の意識改革を促進したい。	◎人権意識の高揚はもとより、本物の芸術や職人芸などに触れる機会を多く持つようにする。 ◎出前授業の活用、豊かな体験活動や「ホンマモン体験」を推進するようにする。 ◎教師と子ども、子ども同士、教師と保護者との円滑な相対性と関係性の高揚に努める。	◎「チーム吹上」を合言葉に、文武両道をスローガンに掲げ、基礎学力充実や算数科教育の発展に努める。 ◎教師と子ども、子ども同士のコミュニケーション能力の向上、読書やうちどくの推進に努める。 ◎研究授業を基軸とした授業改善等を図り、教員相互の資質の向上を目指し、最高の教師集団を構築し吹上の子を育てる。

## 3 その他の課題

◆「チーム吹上の教育理念」は、教職員のみならずPTAや子どもたちの中にも浸透し始めたようだ。すなわち、学校・地域・保護者が一体となった勢いを様々な行事等を通して感じるようになってきた。この勢いをさらに強固なものにするために鋭意努力していきたい。課題としては、学校施設の老朽化問題がある。行政当局に働きかけていきたい。一方、ソフト面では、家庭での子どもが取り組む学習課題や携帯電話やゲーム機、スマホ等の使い方、外遊びの少なさなどの課題も見え隠れしていることから、情報モラル教室の開催等を通して啓発していきたいと考えている。

